令和８年度　授業改善推進プラン　　＜教科名　保健体育　＞

小平市立小平第五中学校

【生徒の実態】　①体育分野　②保健分野

	第１学年	第２学年	第３学年
学力分析	①計画的に学習に取り組める生徒とそれが苦手な生徒とで二極化が激しい。レポート課題など未提出者も多く、家庭学習についても難しい様子である。 ②ワークシートの答え方を正しく理解できない生徒が、各クラス 1/4 程度いる。未提出者も同数程度で催促しても難しい生徒もいる。	①運動に興味・関心の高い生徒と、あまり関心を示さない生徒との間に差が見られる。実際に体を動かす活動には、楽しみながら取り組むことができるが。「何のためにこの運動をするのか」「どのように上達したいのか」といった目的や目標を明確をもって活動することに課題がある。 ②ワークシートに適切にこたえられない生徒が各クラス数人いる。未提出者や、内容不備で提出する生徒が多い。	①定期考査や実技の評価などから基本的な知識はおおむね定着しつつあるが学習した知識や技能を活用して自分の考えを説明したり、課題に応じて運動の仕方を工夫したりする力については生徒によって差がみられる。またレポート課題など未提出者も多く、家庭学習についても難しい様子である。 ②ワークシートは丁寧に記入するが、適切な内容を答えていない場合も多い。未提出者や、期日を守らない生徒が半数近くいる。
学習状況	①運動が好きな生徒は一定数いるが、極度な苦手意識を抱えている生徒もいる。ルールやチームの工夫で前向きに取り組める生徒が多いため、意欲を引き出す工夫が必要だと感じる。 ②授業を楽しみながら取り組む姿勢はどのクラスの生徒も身についている。挙手発言を活発に行ったり、グループ討議も活発で前向きな意見交換を行っている。期末考査に向けての勉強も、おおよそ出来ている。	①技能の向上や課題の解決に向けて、自分自身の動きや活動を振り返り、次の目標を設定することが十分にできていない。運動が得意・好きな生徒は主体的に活動できる一方、運動への関心が低い生徒は、活動自体には参加できても、技能向上や課題解決への意識につながりにくい。 ②授業を楽しむ姿勢は感じられず、挙手発言もほとんどない。また、近隣討議やグループ討議に参加しない生徒も多い。	①授業には意欲的に取り組む生徒が多く、仲間と協力したり意見交換をしながら活動する姿も見られた。一方で、教師からの課題提示を待つ生徒が多く、自分の課題をみつけ、解決方法を考えたり、学習したことを次の活動つなげたりする主体性の部分についてはさらに発展させる必要がある。 ②授業内容を自分事ととらえながら、個人意見の発言や、グループ討議なども活発に行う。定期考査に向けての勉強に時間をかけていない生徒が多い。
生徒アンケートの結果より	①項目１～６は「思う」群の割合が９割を超えている。項目７のみ 88%止まりとなっているため、授業後も復習したいと思える授業づくりを目指したい。 ②「そう思う」「だいたいそう思う」の合計の割合が、90%以上の項目が多い中、項目５と項目７が 80%台にとどまった。保健分野は常に復習しながら生活してほしいので、心に残るフレーズの強調など心がけたい。	①「そう思う」「だいたいそう思う」の合計の割合が、90%以上の項目が多い中、授業内で話し合う場の設定を少なく感じている生徒が多い。作戦や、互いにアドバイスし合う活動を増やしていきたい。 ②「そう思う」「だいたいそう思う」の合計の割合が、90%以上の項目が多い中、項目５と項目７が 80%台にとどまった。保健分野は常に復習しながら生活してほしいので、心に残るフレーズの強調など心がけたい。	①概ね９割を超えているなかで、項目７のみ 90.7%止まりとなっているためわかった、できたで完結させるのではなくもっとやってみたい、次はこうしたと次の学習につながる授業づくりを目指す。 ②「そう思う」「だいたいそう思う」の合計の割合が、全ての項目において 90%を上回っている。その中でも、ICT を利用した教材に興味を持ち、グループ討議も活発に行っていたことは、このまま伸ばしていきたい。

【授業改善の手立て】　①体育分野　　②保健分野

	第１学年	第２学年	第３学年
改善計画	①あえて疑問や課題を残す指導をしていく。答えを全て教えてしまうのではなく、自分たちで考える余地を残し、それを次の授業に繋げていく。 ②授業の流れの始めにTV表示で説明しているが、振り返りやまとめの時に、同じ画面を再表示や黒板に提示していなかったため、提示する。	①授業の流れを、目標設定 → 運動・実践 → 振り返り → 次時の目標設定というサイクルで構成する。活動後には、「できたこと」「うまくいかなかったこと」「工夫したこと」「次に意識したいこと」を振り返らせる。振り返りを単なる感想で終わらせず、次の授業での具体的な目標につなげることで、生徒自身が学習を継続していくことができるようにする。 ②授業の流れの始めにTV表示で説明しているが、振り返りやまとめの時に、同じ画面を再表示や黒板に提示していなかったため、提示する。意見交換が苦手な学年のため、ワークシートを閲覧できるような意見交換方法に替えてみようと思う。	①個人が学びのサイクル（見通し、実践、振り返り）を回すことができるような学習過程を意識する。授業のはじめに今日何ができるようになりたいかを生徒自身が意識できるような時間を作る。授業の振り返りでは単なる感想ではなく「今日できるようになったこと・自分の課題・次の授業で試したいこと」を振り返れるように個人の振り返りの時間を充実させる。学習カードもそのような型をつくる。 ②授業の流れの始めにTV表示で説明しているが、振り返りやまとめの時に、同じ画面を再表示や黒板に提示していなかったため、提示する。提出期日の提示を授業とロイロノート内だけを、教室掲示や係からの声掛け等を追加する。
評価方法	①自分たちで考えた内容を、授業の導入で発表し合い、それを生かした活動を取り入れる。考えてきた生徒が多いほど、復習を行ったと評価できる。 ②自分の考えの他に、近隣との意見交換から発見したこと、クラスで意見交換したことから、感じたことなどをワークシートの入力から評価できる。また、個人の考えを発表するなど積極的に取り組んだ場合、評価する。	①授業中の生徒の活動の様子、学習カードへの記述、振り返りの内容等を活用して評価を行う。特に、技能の向上だけではなく、生徒が自分なりの目標を設定し、その目標の達成に向けて課題を意識しながら運動に取り組んでいるかを重点的に見取る。また、活動後の振り返りから、自分の課題やできるようになったことを具体的に捉え、次の目標や活動につなげようとしているかを評価する。さらに、ペアやグループでの活動において、仲間の意見や助言を生かして自分の活動を改善しようとしているか、仲間と協力して課題の解決に取り組んでいるかについても観察する。 ②自分の考えの他に、近隣との意見交換から発見したこと、クラスで意見交換したことから、感じたことなどをワークシートの入力から評価できる。また、個人の考えを発表するなど積極的に取り組んだ場合、評価する。	①評定の前の評価の回数を増やしていく。単元ごとに評価を一人一人が把握できるような仕組みをつくる。 ②自分の考えの他に、近隣との意見交換から発見したこと、クラスで意見交換したことから、感じたことなどをワークシートの入力から評価できる。また、個人の考えを発表するなど積極的に取り組んだ場合、評価する。